2026 年度事業計画詳細

（１）大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

①　大工道具など実物資料の収集

a）実物資料の収集

保存に資する国内および海外の実物資料を収集する（寄贈、購入情報にもとづき随時実施）。

②　視聴覚資料の収集と保管

a）映像作品「彫刻刀」制作

彫刻刀専門鍛冶である「小信（齊藤和芳氏）」の鍛冶技術を記録する。「三角鑿」「箱鑿」の製作工程を日・英字幕版をつけ、公開する。

b）映像作品「ジョージナカシマー受け継がれるものづくりー」制作

企画展「ジョージ・ナカシマ」（仮）展に関連し、木を扱う姿勢、受け継がれてきたものづくりの思想をテーマに映像作品を製作する。2025 年度より撮影開始し、2026 年 5 月完成予定。

③　分類整理・保管

a）収蔵庫の維持管理・整備

害虫燻蒸、温湿度管理、資料油拭き、収納器材購入等の定常管理業務を実施する。
また、収蔵スペース確保のため、資料の整理、再配架を実施する。2026 年は 2 階および 3 階の資料を中心に整理を実施する。

b）資料データベースの整備

資料管理業務の効率化を目的に、道具・文献・映像・写真・図書・論文資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進中。新規収集資料の登録、写真撮影、配架作業のほか、登録番号見直しを行った資料（約 3,200 点）の配架替えを実施する。

（２）大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

①　常設展示

a）常設展示の保守管理

器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う（定常業務）。

b）常設展示の部分改装

開館 40 周年記念事業の一環として、多言語化を中心に常設展示の部分改装を進めている。今年度は「歴史の旅へ」「棟梁に学ぶ」「世界を巡る」の一部展示品ついて追加・変更を実施する。

②　企画展の準備と実施

a）企画展「墨壺（仮）」

糸を弾いて直線を引くための道具「墨壺」。大工にとって欠かせない道具だが、やがてその姿には美しさや遊び心が込められるようになった。本展では、当館所蔵の多彩な墨壺約 100 点を一堂に集め、その豊かなデザインとそこに息づく物語を紹介する。あわせて墨壺職人による製作実演会を開催する。
会場：当館 1F 多目的ホール

会期：3月7日～5月10日

b）企画展「ジョージ・ナカシマ（仮）」
長きにわたり人々を魅了してきたジョージ・ナカシマ作品の本質的な深い味わいの根源を、素材・技・道具の製作の観点から深堀し、受け継がれてきたものづくりの姿勢や思想から、連綿と受け継がれてきた日本の伝統美、不変の豊かさに立ち返る機会とする。また、関連イベントとしてワークショップおよび講演会を実施する。
会場：当館1F多目的ホール
会期：10月10日～12月20日

c）「一脚展　2026」
兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。
会場：当館1F多目的ホール
会期：9月中旬～9月下旬（予定）

d）海外巡回展ジャパン・ハウス サンパウロ
総合タイトル「Imbuídos das forças das florestas do Japão（木の命を汲む人）」
GFタイトル「Mestres da carpintaria: habilidade e espírito（棟梁：技と心）」
２Fタイトル「KIGUMI: Revelando a Carpintaria por Trás da Junta de Madeira（木組：分解してみました）」
外務省が主催するジャパン・ハウス巡回企画展第6期のサンパウロ会場を実施する。実施はGFと２Fに分けた２部構成とし、時期はGFを2025年11月11日～2026年4月6日、２Fで2026年3月2日～5月24日に開催する。
会場：ジャパン・ハウス サンパウロ
会期：2025年11月11日～2026年5月24日

e）企画展備品の整備
企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を適宜購入する。

③　企画展の中期的準備

a）「鍛冶の名工」（仮題）
「鍛冶の名工」と称される工匠を取り上げる展覧会を2027年春に開催する。これまで「千代鶴是秀」「宮野鉄之助」等を開催。本年度は関連調査を実施した上で、企画案、展示計画を作成する。

（３）道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

①　建築技術と道具に関する研究

a）韓国
日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は朝鮮時代の最後の宮大工と言われた裵喜漢（ベヒハン）氏の口述書『朝鮮木手（モックス）・裵喜漢の生涯、この朝鮮の鋸も錆びてしまった』の和訳を完了する。

b）ヨーロッパ
常設展「世界を巡る」の改定を目的として、フランスとドイツの巡礼大工に関する研究を行う。本年度はヨーロッパ常設展示にて改訂したフランス国のコンパニオンと遍歴修行について、ナビゲーションの捕捉解説用のための調査を行う予定であり、これに関する調査研究を実施する。

c) 大工技術書
大工技術書「鎌倉造営名目」、「黒田宗信伝来文書」に関する読解研究を継続的に実施中。本年度は「鎌倉造営名目」する論考を１点学会誌に投稿予定。

d) 建築部材の加工技術（部材加工痕）
古代～近世前半の建築部材の加工痕研究を継続中。昨年度継続事業として大徳寺発見鑿（近世初期）の復元品にて使用実験を実施し紀要に成果をまとめる予定。

e) 左官への聞き取り調査
道具の名称と使用方法を中心に、左官職人と鏝鍛冶への聞き取り調査を実施している。本年は昨年からの継続として、久住章氏の鏝の形状と壁仕様の変遷、そしてチリ箒のつくり方と使用法に関する調査を実施する。

f) 木材の利用・調達の調査
明治後期から戦前にかけて社寺境内外の森林を対象に作成された施業計画書を対象に、社寺林資源の木材利用に関する研究を行う。本年は史料翻刻およびその分析を進める。

g) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成
道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。また必要に応じて館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

h) 名工品収集（会津ほか東北地方）に向けた調査
会津ほか東北地方の名工品収集に向け、生産者、産地の状況について情報収集を行う。

② 出版活動（研究成果の公開）

a) 研究紀要 No. 37 の発行および No. 38 の準備
調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 37 を 3 月下旬に発行する。また並行してオンライン刊行を進め、印刷物の配布を極力減らす。本年後半には No. 38 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。

（4）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

a) 諸施設への協力
各種学校、博物館、研究機関、職人団体等への情報提供および資料貸出、実習生の受け入れ、館外での受託講演、出張授業、研究協力などを行う。2026 年は全国削ろう会三木大会に協力し、当日の出店に加え、クラフトフェアや鍛冶体験ワークショップ等の PR イベントを館内にて開催する。

② 教育・文化普及活動の実施

a) 「技と心」セミナーの開催
学識者や技術者を講師に迎え一般向けセミナーを開催する（年３回を予定）。今年度は全国削ろう会三木大会と連動した内容を展開予定。

b) ワークショップの開催
「ちょこっと木工」（工作ワークショップ、土日祝日）、「大工と一緒に鉋削りに挑戦！」、「大工道具にチャレンジ！」、春休み・夏休み子ども体験教室等、木工作家によるワークショップを開催する。2026 年 4 月より、水曜日のワークショップ（組子コースターほか）開催をスタートする（夏休み等の繁忙期除く）。また、春・秋に茶室の特別公開（呈茶含む）を実施する。

c) 木工室の管理運営
木工室を安全に管理運営する。イベント開催に必要となる道具、機械、消耗品等を適宜購入する。

③ ボランティア活動の管理・運営

a) 運営管理
大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。

b) 茶道ボランティア運営管理
館内の茶道イベントに対する補助を目的として竹中工務店茶道部にボランティアスタッフとして参加してもらっている。これに付随する稽古費の支払い、消耗品の購入等の運営管理行う。

（5）竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

a) 財務会計処理業務一般
本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。

b) 入館受付、団体受付、展示説明他
団体の自由来館受入れ、解説希望グループ向け対応者の調整を着実に行ない、入館時の受付混雑緩和のための事前手配に努める。個人の来館者、外国人来館者に対しても音声ガイド活用の案内等を行い、満足される対応を行う。また、現在子ども向けに配布しているワークシートの見直しや改善を順次実施する。
外部システムの利用による木工室イベント申込みの受付業務をスムーズに行い、並行して外国人来館者のための英語ページ改善等も継続して行う。
解説・ＷＳ各ボランティアの英語対応力向上の勉強会等の開催を検討、適宜進める。

② 広報活動

a) 広報一般
各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。
博物館施設等のイベント案内に特化したサイトの利用、SNS 発信にも努める。

b) 広報印刷物の発行と送付
気軽に読んでもらえる広報誌「ドウグバコ」（年 2 回発行、作成部数 6 月：3,000 部、12 月：3,000 部）と当館の最新イベント案内を掲載した「イベントカレンダー」（年 2 回発行、作成部数 6 月：3,000 部、12 月：3,000 部）を発行し、関連施設、来館者などに配布ならびに発送する。また、現在の紙媒体発行から電子マガジンへの移行準備を行う。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理
広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年 4 回）、YouTube を含めた SNS 投稿を実施する。また海外対応のため、英語対応を充実させる。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者の嗜好を検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

④　茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋に特別公開と呈茶イベントを実施する。

⑤　休憩室の維持・管理

定期的なイス、テーブル等什器の清掃・消毒に努めるとともに、手指の消毒できる体制を整備し休憩室を適切に維持管理する。来館者が庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥　館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦　理事会･評議員会、役員見学会の開催

2月に決算の定時理事会及び定時評議員会、10月に次年度の事業計画･予算の定時理事会及び役員見学会(役員全員)を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。

⑧　財団法人事業報告会への参画

(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークワッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨　運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費（固定経費）をより精度よく把握するとともに、事業費（変動費）の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。